

学校運営計画(4月)

評価(3月)

学校運営方針

『ふくおか未来人材育成ビジョン』の趣旨を受け、国際的な視野を持って、地域で活躍する生徒を育成する。本校の校訓である「向学」「礼儀」「進取」の精神を具現化し、個に応じたきめ細やかな指導を行い、一人一人の生きる力を伸ばし、生徒の進路を実現させ、国家及び社会に貢献できる人材の育成を目指す。

昨年度の成果と課題

年度重点目標

具体的目標

○「今こそ見せる玄洋魂 目指すは君の日本一へなり たい自分への第一歩へ」を学校スローガンに基づき、学校全体が一体となって、本校の教育活動の向上と改善に邁進していく。

キャリア教育を根底に据え、「わかる授業」の推進と教育活動における共感的人間関係づくりと自己決定の場面づくりにより、生徒の学力や主体性、自尊感情(自己肯定感や自己有用感)を高める。

授業規律の確立を徹底し、基礎・基本の学力定着を重視した学習指導を行うとともに、観点別評価の推進により、生徒の学習意欲を高め、思考・判断・表現力を身に付けさせる。

授業をはじめ全ての教育活動で、生徒が主体的に活動する場面を意図的・計画的に取り入れるとともに、全職員が生徒に自信や達成感などを味わわせるための取組(発問や言葉かけの工夫など)を行い、自己肯定感や自己有用感を高める。

3年間を見通した組織的・計画的な進路指導を展開し、一人一人の「やりたい自分」の実現を目指す。

○観点別評価の導入、ICTを用いるなどアクティブ・ラーニング型授業の推進し、生徒の学力向上、授業改善に努めた。「主体的・対話的で深い学び」をさらに推進し、大学入試改革に対応した授業づくりを行い、生徒の学力向上を図る。

「時を守り、場を清め、礼を正す」指導を組織的かつ協働的に行い、社会人として必要な資質の向上を図る。

登下校指導やチャイム席等を通じて、生徒の時間管理意識の向上を図る。

日常の保健活動や保健指導を推進するとともに、環境整備に努め、清潔で健全な学校生活を送ることができるよう指導する。

対話を重視した生徒指導により、挨拶や身だしなみ等の社会性や規範意識を醸成するとともに、生徒の自己指導能力を高める。

○個々の生徒理解を深め、個に応じた対話型の生徒指導を進めた。生徒の自己指導能力の向上を図る生徒指導を推進するとともに、生徒の主体性を育成する教育活動の充実を図る。また、生徒の進路保障に向けて、キャリア教育部と各学年の連携・協力を組織的・計画的に進めていく。

保護者・地域から信頼され、地域と共に育つ、開かれた学校づくりを推進する。

「知・徳・体」のバランスのとれた社会で必要とされる生徒を育成するとともに、入学時より生徒の力を伸ばして生徒の進路を保障する「地域から信頼される学校」づくりを目指す。

文化祭・体育大会等の学校行事や授業等の教育活動を地域や保護者へ積極的に公開するとともに、積極的な広報活動を展開し、「開かれた学校」づくりを推進する。

学校評議員会、学校関係者評価委員会及び教育振興会等との意見交換を積極的に行い、教育活動の改善・充実に反映させる。

具体的目標

具体的方策

評価(3月)

次年度の主な課題

		具体的目標	具体的方策	評価(3月)	次年度の主な課題	
教務部	教務	授業規律の確立を徹底する。	予鈴を合図に職員も教室に向かい、廊下等での呼びかけや教室でのチャイム席指導を行う。 授業の始めと終わりの「挨拶」「黙想」、机上の整理等の指導を徹底する。 授業中の巡回指導を通して、授業担当者や連携し授業規律の向上を図る。			
		生徒の学習意欲を高め、基礎学力の定着を図るとともに学力向上に向けた授業改善を推進する。	第1、2学年において観点別評価の導入と推進を図る。 観点別評価及びアクティブ・ラーニング、ICTの活用等を通して積極的な授業改善を行う。 研修部と連携し、職員研修及び教科会の充実を図る。			
		基本的な生活習慣の確立により、遅刻・欠席者の数を減少させる。	個別の遅刻カードを用いた対話による粘り強い個別指導を行う。 定期的に皆勤生徒の表彰をすることで、生徒の意欲を高め出席率の向上を図る。			
		庶務	学校行事を円滑に立案・実施し、有意義な学校行事を通じて生徒の学校生活をより充実させる。	教科間や分掌間での連携を密にし、教職員間の協体制づくりを行う。 明解でわかりやすい計画作りにより、役割意識を明確にし、学校行事を成功させる。		
			中学生とその保護者及び地域の方々に、地域と共に成長する本校の姿をアピールする。	体験入学において、授業や部活動など、学校生活で頑張っている生徒の姿を紹介し、中学生と本校生が交流する機会を作る。 行事ごとに生徒の活動を記録し、広報と連携して刊行物を充実させ、学校内外に貢献している生徒の姿を示す。		
			広報企画	地域や中学校に対し本校の教育活動をPRし、玄洋高校に対するイメージアップを図る。	玄洋高校ニュースを適宜発行し、中学校・学習塾等に配付することで本校のイメージ向上を図る。 中学校訪問と学習塾訪問を適宜実施し、本校の教育活動の理解や情報交換等、連携を深める。 ホームページ等の学校情報を行事毎に素早く公開する。	
	中学校に入試や在籍生情報等を提供し、信頼関係の構築を果たすとともに、昨年度を上回る志願者を獲得する。	体験入学や進学相談会の積極的な受け入れを行い、参加生徒数を増加させる。 入試説明会や進学相談会において、庶務課や生徒会との連携を密にし、玄洋高校が目指す生徒像や募集方針などを丁寧に説明する。 収集した情報について分析を行い、活性化委員会等での周知徹底を図る。				
	研修	本校の課題に沿った効果的な研修を企画し実施する。		研究授業・公開授業を実施し、特に観点別評価の推進・研究を目指し、授業研究・研修を充実させる。 各分掌や学年との連携で、有効な校内研修ができるよう内容や妥当性をよく吟味し、早めの企画立案を行う。		
		感性豊かで思いやりの心を持った生徒の育成を目指す。	生徒の実態等を考慮した人権・同和教育授業を行い、生徒の人権意識を高めるとともに、教師自ら研修の機会を作る。 図書館の広報活動に努め、読書会やビブリオバトルなどの学習会を企画し、読書を通じて心豊かな人間形成を図る。			

		具体的目標	具体的方策	評価（3月）	次年度の主な課題	
生徒育成部	生徒指導	個々の生徒理解を深めるために、生徒との人間的な触れ合いを積極的にを行い、生徒の自己指導能力の育成と生徒の社会的自己実現を目指す。	生徒観察を十分にを行い、コミュニケーションを図りながら対話を重視した粘り強い指導を行う。特に、生徒指導に当たる際には、できるだけ複数で当たり、その後は教師間における情報の共有を密に行う。 自転車マナー指導に併せて問題行動の予防に努め、継続的な登下校指導を実施する。			
		部活動の加入を促進し、学校行事に主体的に参加させることにより自己決定と自己実現の場を与え、学校全体の活性化を目指す。	新入生体験入部の実施、並びに退部した生徒の再入部・または別の部への入部の呼びかけを粘り強く行う。さらに、定期的な部活動生集会の実施や昼休みの放送を活用して、各部からの大会の案内や活動報告等を行う。入部率60%を目指す。 生徒会を中心とした各種委員会活動においては、各場面で生徒が主体的に活動できるように生徒と十分に連携を取りながら指導する。			
	保健	毎時間の授業に集中できるよう授業中の安易な保健室来室数を減らす。	自らの食生活や生活習慣を見直し、健康管理についての意識を向上させるために、定期的に保健便りを発行する。 保健室の休み時間利用を促進するために、教務や教科担当との連携を図る。			
		心の健康問題を抱える生徒に十分対応するため、外部機関（SC、SSW、訪問相談員）と更なる連携を図る。	不登校生徒数の減少を図るため、教育相談委員会等で情報共有を行い、外部機関と連携した教育相談機能を充実させる。 学年会や生徒指導課会の情報を養護教諭と共有し、外部機関との円滑な連携を図る。			
「みんなが掃除をしている、いつも学校がきれいである」状況を作る。美化点検の充実を図るとともに、地域社会に美化活動で貢献する。		掃除用具の過不足をなくすため、美化委員会と連携した在庫管理を定期的実施する。 美化委員会を中心に定期的に点検を行い、きちんと清掃できていないところはクラスや担当に報告し改善を促す。				
		ボランティア活動への積極的参加を促すため、部活動や生徒会と連携する。				
キャリア教育部	進路指導	生徒の多様な進路希望に対応し、一人一人の進路指導をきめ細かく行う。	各種キャリアセミナーや大学体験などをとおして、上級学校での様々な分野の学びについて生徒の視野を広げさせ、進学意欲を向上させる。 専門学校との連携を図りながら、公務員採用試験対策を充実させ、充分な知識と理解を得ることにより合格率を向上させる。 担任、就職担当、ハローワーク等との連携を密にし、生徒の能力・適性に合った就職ができるようサポートを行う。			
		上級学校、企業の多様な入試制度に対応し基礎学力と自己表現力の育成を図る。	総合的な学習の時間を活用し、系統的に作文・小論文について取り組み、理解を深めさせるとともに就職、進学に対応できる力を養う。 大学、専門学校、ハローワーク等との連携を図り、マナー指導や社会で必要とされる人材育成を目指したセミナーを実施し、社会人基礎力を育成する。 1年生から「学び直し」を中心に据えた形での授業展開を行い、基礎学力定着に努める。一方で特進クラスの生徒に対しては、3年間を見通した形で大学入試に対応できる学力の養成を目指す。			
		将来の職業を見据えた卒業後の進路について、系統的な指導を行いながら考える機会を与える。	HR、総合的な学習の時間等で様々な社会問題について取り上げ、理解を深めさせるとともに生徒の目を広く社会に向けさせる。 カタリバ、「ようこそ先輩！」などの行事をとおして他者の生き方に触れることにより、自らの生き方を考えさせる。 上級学校の学部・学科研究、職業についての調べ学習を教育活動の様々な機会を利用して行い、適切かつ正しい知識を身に付けさせる。			
		キャリア教育推進体制とキャリア教育プログラムをさらに発展させる。	現在のキャリア教育体制とキャリア教育を見直し、3年間を見通した組織的・計画的な進路指導がさらに実施できるように整備する。 「大学入学共通テスト」を意識した生徒の論理的思考力の育成を主眼としたプログラムを構築する。			
	人材育成	各種体験活動の実施と充実により生徒の進路に向けた意識を育成する。	インターンシップやジョブシャドウイングをとおして、望ましい勤労観や職業観を育成する。 アカデミックインターンシップやオープンキャンパスへの参加を積極的に促し、進路意識を向上させる。			
		地域交流の促進により築かれた地域との深いつながりをさらに発展させていく。	元岡豊年祭りをはじめとした地域における行事に積極的に参加させる。 ボランティア活動を活性化させ、地域の各種団体との連携を強化し、地域に貢献する意識を育む。			
	学年	第1学年	○基本的な生活習慣の定着を図るとともに、校訓「向学」の精神に基づいて学びの姿勢の尊重と学力の向上を図る。	学び直しの学習を活用し、中学校段階までの学習内容の完全定着を図る。 欠席・遅刻を安易にしないよう指導し、チャイム席や各集会の際に「時を守る」ことを徹底する。出席率90%以上を目指す。 校内検定試験を実施し、生徒の学習意欲の向上と「やればできる」という自信や希望を持たせる。 教室等校内の学習環境の整美を促し、日頃の清掃活動を通して「場を清め」る指導に努める。		
			○学年・学級等の集団活動を通して、生徒相互の連帯感を育成し、人間の尊厳と人権を尊重し、校訓「礼譲」の精神をもって相手を思いやり共助の精神を育成する。	普段から始・終業時や校内での元気な挨拶や端正な身だしなみを促し、「礼を正す」機会を多くつくる。 エンカウンターやSSTを通して、良好な人間関係やコミュニケーション能力の育成を図る。		
			○校訓「進取」の精神に基づき社会及び自己の未来を見据えたうえで、生徒一人ひとりにそれぞれに適した進路を自ら選択することができる能力を育成する。	いじめや差別を絶対に許さない雰囲気づくりと課題を抱えた生徒・家庭へ対する組織的対応を行う。 アカデミックインターンシップやカタリバ等の体験的な活動を通して、実際の進路意識の向上を図る。 二者面談や進路希望調査等を通して、進路実現に向けての体制を構築する。 進路学習を通して「なりたい自分」の姿を明確に描き、あわせて望ましい職業観を育成する。		
○授業や生徒会活動、部活動等を通して、自らの考えや思いを自信を持って表現することができる生徒を育成する。			部活動体験等を通して、部活動の入部率60%以上を目指す。 学級活動や生徒会活動、各種行事を通してリーダーシップやフォロワーシップを養成し、諸活動に積極的に参加する意欲を育成する。			

		具体的目標	具体的方策	評価（3月）			次年度の主な課題
学 年	第2学年	<p>○中堅学年として生徒のリーダーシップの涵養するとともに、それを支える母校愛の醸成する。</p> <p>○玄洋生の誇りをもって「時を守り、場を清め、礼を正す」自律した集団を育成する。</p> <p>○基礎学力を定着による下位層の減少と上位層の増加を図るとともに、自身の進路を主体的に作り出そうとする生徒を育成する。</p>	<p>エンカウンターを効果的に行い、共感的な人間関係を育み帰属意識を高めることを基盤とし、学年集会や特別活動、人権に関する授業など、あらゆる教育活動を通じてリーダーシップを涵養する。</p> <p>行動目標を定めた強化週間を設け、それを適切に評価しながら、生徒の自尊心を高めつつ自律した行動を身に付けさせる。</p> <p>学級の構成の特徴を活かしたきめ細かな学習指導を学年で連携して行う。総合的な学習の時間やカタリバ、インターシップなどを通じて自己理解と職業理解を深め、進路に対する広い視野を育てる。</p>				
	第3学年	<p>○最上級生として、学校生活全般において牽引役を果たしながらリーダーを育成する。</p> <p>○「時を守り、場を清め、礼を正す」を前面に押し出した形で指導を行い、社会人として必要な資質を身に付けさせる。</p> <p>○学習への積極的な取り組みを通して学力を付けさせ、生徒個々の希望進路実現を果たす。</p>	<p>体育大会を一つの目標として、学年集会や特別活動を通じて、生徒が自ら行動できる場を設定する。</p> <p>リーダーシップ涵養や自尊感情の育成・共感的な人間関係づくりの促進を図る。</p> <p>総合的な学習の時間等を利用し、社会人としての意識付けを行ないながら、「できる・やる・やらなければならない」を意識づける。教育活動全体を通して、環境整備に対する意識を持たせ、社会でも実践できるようにする。</p> <p>社会人として通用する礼法や言葉遣いを身に付けさせる。</p> <p>生徒の希望進路に応じた分野別、さらには個別指導の充実を図る。</p> <p>キャリア教育部と連携し、全員の進路実現をする。</p>				